



## THE PORTLAND GROUP

PGI Visual Fortran<sup>®</sup> for Windows<sup>®</sup>

Release 8.0

For Microsoft<sup>®</sup> Visual Studio

– インストールの手引き –

2008年11月版 (Rev. 8.0-A)

株式会社 ソフテック HPC ソリューション部

(<http://www.softek.co.jp/SPG/>)

***SofTek***

## 目次

1 はじめに .....	1
1.1 本文書の内容 .....	1
1.2 PVF 製品のソフトウェア情報パッケージについて .....	1
1.3 ライセンス形態 .....	1
2 Web アカウントの確認とアカウントの有効化.....	2
2.1 PGI WEB アカウントの事前確認(新規購入のお客様) .....	2
2.2 現在使用中のお客様 (バージョンアップを行うお客様)の場合 .....	2
3 PVF コンパイラのインストール準備 .....	3
3.1 インストールする PVF コンパイラのソフトウェアの種別.....	3
3.2 以前のバージョンをインストールしている場合の留意点.....	3
3.3 PVF ソフトウェアのディレクトリ構造 .....	4
3.4 インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション .....	5
3.5 ソフトウェアの準備.....	5
4 ソフトウェアのインストール.....	6
4.1 MICROSOFT® VISUAL STUDIO 2005/2008 のインストール .....	6
4.2 PVF コンパイラのインストール .....	7
4.3 新規ライセンスキーファイルの自動取得手続き .....	9
5 バージョンアップ時のライセンスの設定方法.....	12
5.1 正式ライセンスの取得.....	12
5.2 ライセンスファイル (LICENSE.DAT) の修正と配置.....	12
5.3 FLEXLM ライセンス・マネージャの起動 .....	12
6 PVF フローティング・ライセンスの設定 .....	15
6.1 他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定 (PVF SERVER 製品) .....	15
7 その他.....	16
7.1 PVF コンパイラの起動.....	16
7.2 PVF コンパイラ・ソフトウェアのアンインストール.....	17
7.3 PVF コンパイラの入門ガイド.....	17
7.4 オンラインドキュメントの参照.....	17
7.5 バグフィックスの適用.....	18
8 サポートサービスについて.....	19
8.1 初期サポートサービス.....	19
8.2 ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口 .....	19

# 1 はじめに

## 1.1 本文書の内容

本書は、The Portland Group Inc.（以下、「PGI」と称します。）の PGI Visual Fortran®（以下、「PVF」と称します。）コンパイラ製品のインストールおよびライセンス設定方法を記述したドキュメントです。

## 1.2 PVF 製品のソフトウェア情報パッケージについて

弊社にて PVF 製品の「ソフトウェア情報パッケージ（サブスクリプション）」を用意しております。ソフトウェア情報パッケージをご購入頂くことにより、以下のサービスが受けられます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

同パッケージを未購入の方でも、製品出荷後 30 日間はインストールに関するサポートサービス（電子メール、FAX のみ）を受けることができます。ソフトウェア情報パッケージで提示しております内容を希望される場合は、本パッケージのご購入が必要となります。

ソフトウェア情報パッケージの有効期間は、出荷セットに同梱致しました「ソフテック エンドユーザ登録用紙」の「プロダクト情報」の欄に記載されておりますのでご確認下さい。また、本パッケージは製品ご購入後 1 年間有効（製品ご購入時に設定される無償保証期間は含みません）とし、2 年目以降もご希望のユーザ様には、継続購入して頂く必要がございます。

## 1.3 ライセンス形態

PVF コンパイラのライセンス形態は、ノードロック形態並びにフローティング・ライセンス形態のどちらにおいても以下のような FLEXlm 形式のライセンスとなります。下記に本製品のライセンス形態と制限事項を説明致します。

表 1 ライセンスの形態

ライセンスタイプ	内容
FLEXlm 形式	任意のユーザアカウントでコンパイラを使用できます。コンパイルを同時に行えるユーザ数の制限があります。また、ネットワークカードが実装されている必要があること、およびライセンスサーバデーモンを起動する必要があります。

表 1 のコンパイルを同時に行えるユーザ数は、ご購入頂きました製品タイプによって異なります。PVF ノードロック製品は、インストールするシステムが 1 台に固定されるライセンス製品です。また、PVF フローティング・ライセンス製品では同じネットワークにつながった任意の Windows®マシン上にインストールすることが可能です。PVF Server 製品は、任意の 1 台のシステムを「ライセンス管理のためのサーバ」として兼用します。

PVF のライセンスキーは、下記の動作を対象マシン (PVF フローティング・ライセンスの場合は FLEXlm ライセンス管理サーバに対して) に行った場合、ライセンスキーが無効となり、ライセンスキーの再発行が必要となりますのでご注意ください。下記の作業を行っても、ライセンスの変更を行わなくてもよい場合がございますが、開発元の PGI が提示している制限ですので、あらかじめご了承ください。

- マザーボードを交換したとき
- ネットワークカードを別のスロットへ移動したとき
- 別のネットワークカードを追加したとき
- ネットワークカードをマザーボードから抜き、新しいカードと交換したとき

## 2 Web アカウントの確認とアカウントの有効化

### 2.1 PGI Web アカウントの事前確認(新規購入のお客様)

PGI 製品ライセンスを新規に購入したお客様には、購入時のユーザ情報にもとづいて、PGI 社のライセンス管理用の Web アカウントが自動的に作成されております。このアカウント名は、登録ユーザの電子メールアドレスとなっており、本アカウントを最初に使用する前に、「アカウントの有効化(アクティベーション)」が必要です。

PGI コンパイラをインストールする前に、必ず、ご自身の Web アカウントの有効化を行ってください。PGI リリース 8.0 から、インストール中に、**新規**ライセンスキーファイルの自動取得手続きと自動でのライセンスファイルのセットアップができるようになりました (Windows 版のみ)。この手続きは、購入したお客様の Web アカウントが既に有効化されていなければできません。なお、インストール中にこうしたライセンスキーファイルの自動取得を行わずに、従来通り、別途、ご自身で PGI 社の Web サイトから入手する方法もできます。

アカウントの有効化(アクティベーション)に関する詳細は、別紙「PGI ライセンス発行の手引き」の 4 ページの 1.1 項に説明しております。あるいは、弊社 Web サイトの以下の URL にて、説明しておりますのでご参照ください。アカウントの有効化した後、改めてログインできるかどうかをご確認して下さい。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html>

### 2.2 現在使用中のお客様(バージョンアップを行うお客様)の場合

現在、すでに PGI 製品ライセンスを有しており、コンパイラをお使いのお客様は PGI 社のライセンス管理用の Web アカウントは既にお持ちになっております。したがって、上記 2.1 項で述べたアカウントの有効化の作業は一切必要ありません。

また、上述のように Windows 版 PGI リリース 8.0 から、インストール中に、新規ライセンスキーファイルの自動取得手続きと自動でのライセンスファイルのセットアップができるようになりましたが、これは、**新規**ライセンスキーの取得を目的にした手続きですので、すでに過去のバージョン用にライセンスキーを取得している場合は、インストール中におけるこの自動取得手続きは行わないようにしてください (「行う」かどうかの設問がインストール中に現れます)。なお、たとえ、誤ってライセンスキーの取得手続きを「行う」として進めたとしても、「すでにライセンスキーが存在する」というメッセージが返ってくるだけで、ライセンスの取得手続きをキャンセルすればよいです。大きな問題ではありませんのでご安心ください。

バージョンアップを行う場合、新リリース用のライセンスキーの取得は、別途、PGI 社のライセンス管理用の Web サイトにログインしていただき、新バージョン用のライセンスキーを

入手してください。このキーを C:\Program files\PGI\license.dat ファイルに上書きしてください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html#003>

## 3 PVF コンパイラのインストール準備

### 3.1 インストールする PVF コンパイラのソフトウェアの種別

PVF コンパイラ・ソフトウェアは、Windows OS が 32 ビットか、あるいは 64 ビットの種別と使用する Visual Studio のバージョンに応じて、以下の四種類のソフトウェア・ファイルを提供しております。使用する Windows の OS 製品/Visual Studio に合ったソフトウェアを弊社からダウンロードしてください。

	32 ビット Windows の場合	64 ビット Windows の場合
PGI Visual Fortran 2005	pgivf-vs2005-xxx.exe	pgivfx64-vs2005-xxx.exe
PGI Visual Fortran 2008	pgivf-vs2008-xxx.exe	pgivfx64-vs2008-xxx.exe

#### ① 32 ビット Windows®用ソフトウェア

本ソフトウェアは、32 ビットの Windows®のみにインストール可能です。32 ビットモードのコンパイラ・システムがインストールされます。なお、このコンパイラでは、64 ビット用の実行モジュールは作成できません。

#### ② 64 ビット Windows®用ソフトウェア

本ソフトウェアは、64 ビットの Windows®のみにインストール可能です。32 ビットモードと 64 ビットモードの二つのコンパイラ・システムがインストールされます。従って、このコンパイラでは、32 ビット用並びに 64 ビット用の実行モジュールを作成できます。

### 3.2 以前のバージョンをインストールしている場合の留意点

現在、PGI コンパイラを使用しているシステム上では、PGI ライセンス管理マネージャ (FLEXlm) が起動されておりますので、これを停止してください。Windows® の「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」を起動します。管理ツールを起動した後、この中の「サービス」をクリックします。この中に、「PGI License Server」という名称のサービスがありますので、この項目をクリックして選択します。「サービスの停止」のアンカーがありますのでこれをクリックして停止してください。

以前のバージョン (PGI 7.2) をインストールしてある場合で、過去のバージョンが必要な場合は、アンインストールすることを推奨します。但し、アンインストールをせずに、過去のバージョンを保持することもできます。アンインストールは、Windows® の「コントロールパネル」の中の「アプリケーションの追加と削除」で行うことが可能です。PGI Visual Fortran のコンポーネントは、以下の二つのモジュール名で識別できます。(②に示す 7.2-5 は、一例です。インストールされたバージョン番号が記されます)

① 「PGI Visual Fortran」

② 「PGI Visual Fortran (Compilers only) 7.2-5」

①は、Visual Studio 2005 用の PVF のための統合用モジュールです。これは常に新しいバージョン

ジョンをインストールする度に上書きされますが、予め削除しておくことをお勧めします。  
②は、PGI のコンパイラ本体部分のモジュールです。古いバージョンが必要ない場合は、これも削除してください（なお、これを保持したい場合は、このまま残すこともできます）

また、過去のバージョンをインストールしてある場合は、PGI コンパイラのインストールを行ったディレクトリの配下に license.dat がセットされております。このファイルを予め、licence.backup 等の名前に変更し、この license.dat 名のファイルを必ず削除してください。

**【デフォルトのインストール・ディレクトリ】**

C:\Program Files\PGI\license.dat （このファイルを削除するか、別名にしてください）

### 3.3 PVF ソフトウェアのディレクトリ構造

インストールするディレクトリをデフォルトのままで行った場合、以下のディレクトリ・パスにインストールされます。インストールを行うデフォルトのトップ・ディレクトリは、一般に、C:\Program Files\PGI となります。32 ビット Windows®（以下、「Win32」と言う。）の場合、並びに 64 ビット Windows®（以下、「Win64」と言う。）の場合は、以下のようなパス構造となります。

- Win32 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

C:\Program Files\PGI\win32\8.0-1\

- Win64 環境での デフォルト・インストール・ディレクトリ

C:\Program Files\PGI\win64\8.0-1\ (64 ビットモード)

C:\Program Files (x86)\PGI\win32\8.0-1\ (32 ビットモード)

※ 8.0-1 は「バージョン番号」で、ソフトウェアのバージョンにより変化します。

さらに、以下の三つのディレクトリ（Microsoft Open Tools、FLEXlm）が生成されます。

C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9（マイクロソフト社のユーティリティ）

C:\Program Files\PGI\flexlm（ライセンス管理マネージャ）

**【Win64 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】**

Name of directory	Contents
C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran	PVF 用の統合ソフトウェア(32 ビット・エリアに格納)
C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran\Doc	PVF ドキュメント類
C:\Program Files\PGI\win64\8.0-1\bin C:\Program Files (x86)\PGI\win32\8.0-1\bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ(64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\8.0-1\lib C:\Program Files (x86)\PGI\win32\8.0-1\lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ(64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\8.0-1\include C:\Program Files (x86)\PGI\win32\8.0-1\include	PGI コンパイラのヘッダファイル(64bit 用、32bit 用)

C:\Program Files\PGI\win64\8.0-1\REDIST C:\Program Files (x86)\PGI\win32\8.0-1\REDIST	再配布用の PGI ランタイムライブラリ (64bit 用、32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win64\8.0-1\src C:\Program Files (x86)\PGI\win32\8.0-1\src	PVF が提供する modules のためのソースファイル
C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9	マイクロソフト・ツール

**【Win32 上でのインストールされるファイルの場所とそのイメージ】**

Name of directory	Contents
C:\Program Files\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran	PVF 用の統合ソフトウェア (32 ビット・エリアに格納)
C:\Program Files\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran\Doc	PVF ドキュメント類
C:\Program Files\PGI\win32\8.0-1\bin	PGI コンパイラ、ツールのバイナリ (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\8.0-1\lib	PGI コンパイラ、ツールのライブラリ (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\8.0-1\include	PGI コンパイラのヘッダファイル (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\8.0-1\REDIST	再配布用の PGI ランタイムライブラリ (32bit 用)
C:\Program Files\PGI\win32\8.0-1\src	PVF が提供する modules のためのソースファイル
C:\Program Files\PGI\Microsoft Open Tools 9	マイクロソフト・ツール

### 3.4 インストールに必要なディスク容量およびアプリケーション

PVF コンパイラをインストールする際は、一時的に約 600MB (定常的には 300MB を使用) のハードディスク容量が必要になります。インストールするマシンのディスク容量を事前にご確認下さい。

### 3.5 ソフトウェアの準備

本コンパイラ製品をインストール際は、「システム管理者権限」でインストールを行ってください。なお、すでに [PVF の評価版ソフトウェアをインストール済み](#)の場合は、[正式なライセンスキーのセット手続きのみ](#)となりますので、[4.3 項の手続き](#)を行ってください。

PGI コンパイラのソフトウェアは、定期的にバグフィックス・リリースをしておりますので、弊社のサイトから最新 (直近) のソフトウェアをダウンロードしてご使用ください。ダウンロードしたファイルは、Windows®上の一時的なフォルダ内に保存してください。

## 4 ソフトウェアのインストール

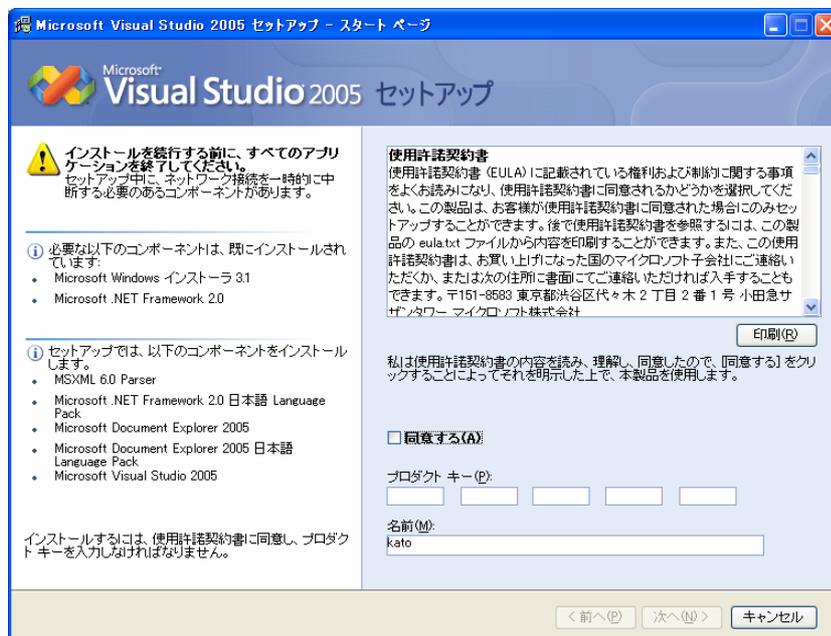
### 4.1 Microsoft® Visual Studio 2005/2008 のインストール

PVF 2005/2008 製品は、そのインストール前に必ず、Visual Studio 2005/2008 Standard Edition 以上、あるいは、無償で入手可能な Visual Studio 2008 Shell integrated mode 日本語版をシステム上にインストールしておく必要があります。64 ビット Windows 上では、Visual Studio の 32 ビット用のコンポーネントの他に、64 ビット対応のコンポーネントもインストールされます。必ず、インストールの最中に現れる「セットアップ画面」(以下の画面例) に表示される「コンポーネント」の内容をお確かめ下さい。

Microsoft Visual Studio ソフトウェアの導入に関しては、別のドキュメントとして「PGI Visual Fortran のための Microsoft (R) Visual Studio (R) 導入ガイド (日本語環境 Visual Studio の構築)」がありますので、これをご覧のうえ、日本語モードの Microsoft Visual Studio 統合開発環境を実装してください。

Microsoft Windows Vista 上の Visual Studio 2005 には、以下で述べた Visual Studio のセットアップの他に、Visual Studio Service Pack 1 並びに the Service Pack 1 Update for Vista のインストールが必要です。Microsoft のホームページからダウンロードして、インストールしてください (<http://support.microsoft.com/kb/936453/ja>)。

以下の説明は、有償版である「Visual Studio 2005/2008 Standard Edition」の場合のインストールイメージです。Visual Studio 2008 Shell integrated mode を使用する場合は、以下の説明は無視してください。

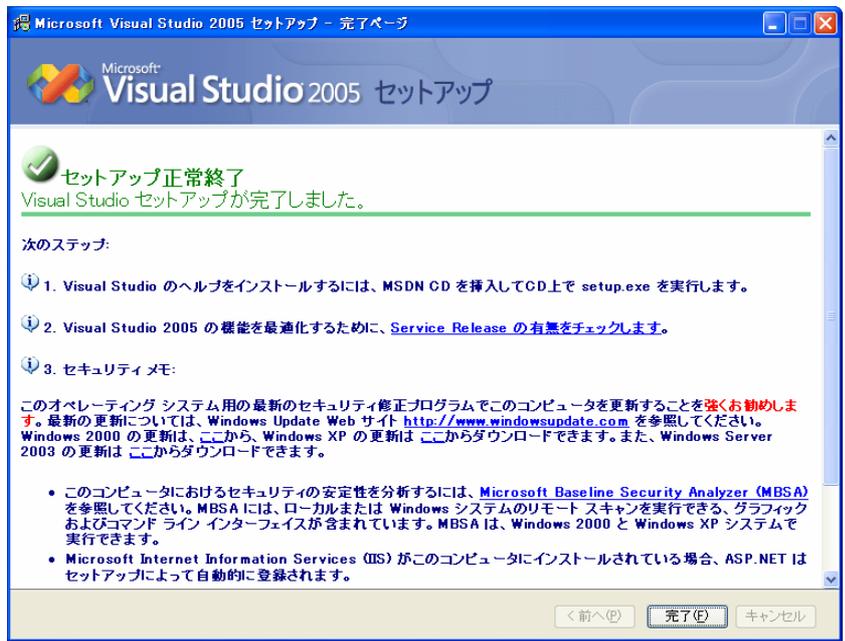


(上図は、32 ビット Windows 上でのセットアップ画面)

上記画面で、プロダクトキーを入力して次に進みますと、以下の画面が現れます。Microsoft の開発言語を選択するものですが、用途に応じて選択してください。Visual C++ は、必ずインストールしてください。(一般には、Visual C++と Visual Basic 等を選択します)

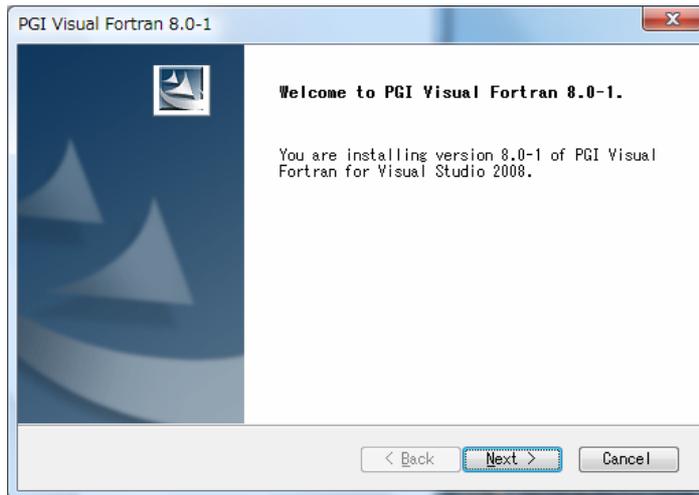


その後、インストールが始まり、インストール終了まで 15～20 分程度の時間が掛かります。終了時に、以下の画面が出ますので、これにて Visual Studio のセットアップの終了となります。



## 4.2 PVF コンパイラのインストール

ダウンロードした自己解凍形式の `pgivf-vs2005-xxx.exe`、`pgivf-vs2008-xxx.exe` (32 ビット版) あるいは、`pgivfx64-vs2005-xxx.exe`、`pgivfx64-vs2008-xxx.exe` (64 ビット版) のいずれかのファイルをダブルクリックすることで、インストールが開始されます。ウィザードに従って、インストール手続きをお進めください。(以下の初期画面が出るまで、多少お時間が掛かります)



ウィザード画面は、以下の順番で進行します。

- PGI License Agreement/AMD ACML Library の使用許諾確認
- ユーザ情報入力 (名前、会社名)
- PGI コンパイラ自身のコンポーネントをインストールする場所を指定します。Win64 上では、64ビット用と 32ビット用の二つのインストール場所を設定します。Win32 上では、32ビット用のみの指定となります。(一般的には、デフォルトのまま、「Next」をクリックしてください。)
- Win64 上では、次に 32ビット用のインストール場所を設定します。(一般的には、デフォルトのまま、「Next」をクリックしてください。)

その後、以下のような確認画面が現れますので、確認した上で次に進んでください。

- コンパイル時にオブジェクトの一次的な中間ファイル使用するフォルダを指定します。デフォルトは、C:\temp です。指定されたフォルダは存在しなければ自動的に作成されます
- Windows システム上に登録される「プログラムフォルダ名」の確認
- Check Setup Information の確認画面  
(その後、インストールが開始されます。多少時間が掛かります)

インストールの最後のフェーズで、以下のような二つのエラーメッセージがでる場合がありますが、これは無視しても問題ありません。



この後、引き続き、ライセンスのセットアップ手続きに移ります。

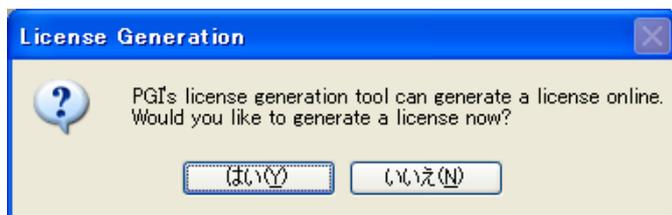
### 4.3 新規ライセンスキーファイルの自動取得手続き

インストールは引き続き行われ、以降の手続きは、新規ライセンスキーファイルの自動取得手続きと自動でのライセンスファイルのセットアップとなります。この手続きは、購入したお客様の Web アカウントが既に有効化されていなければいけません。

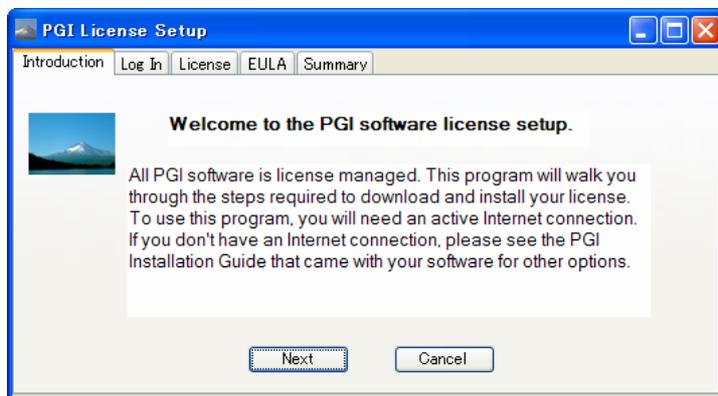
なお、以降の手続きは、改めて行うこともできます。Windows の「スタート」->「すべてのプログラム」->「PGI Workstation 8.0-x」->「PGI Workstation Tools」->「License Generation」を選択しますと、本項の説明の「License Generation」ダイアログが現れます。

「バージョンアップの目的のお客様」は、これ以降のライセンスキーファイルの自動取得手続きは行わないでください。以下の「License Generation」ダイアログでは、「いいえ」を選択して、インストールを終了してください。(ライセンスキーは、別途 Web アカウントで PGI サイトにログインして、取得してください)

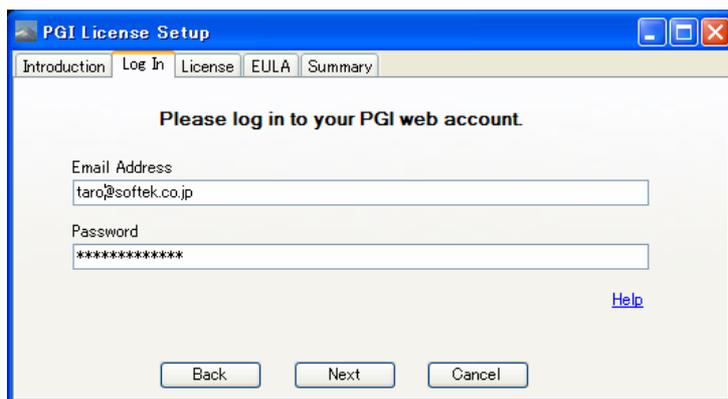
「新規購入のお客様」のみ、「はい」を選択してください。もし、インターネットに接続できない環境の場合は、「いいえ」として、インストール後、別のシステムから Web アカウントで PGI サイトにログインして、ライセンスキーを取得してください。



これ以降、ライセンスセットアップ手続きとなります。「Next」を押して下さい。

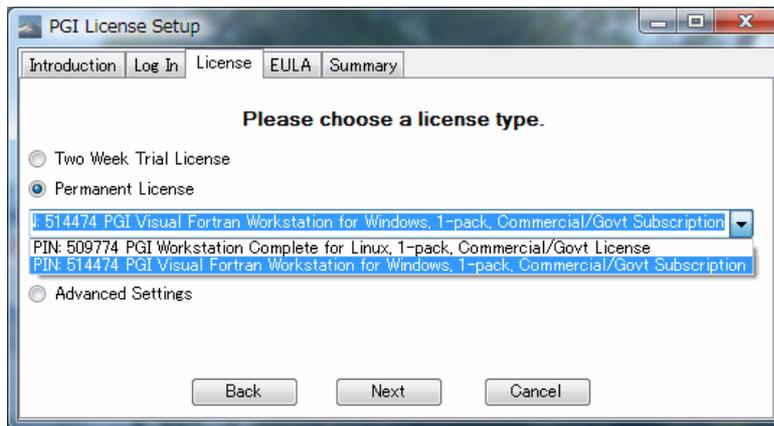


Web アカウント名 (登録した電子メールアドレス) とパスワードを入力してください。「Next」を押して下さい。

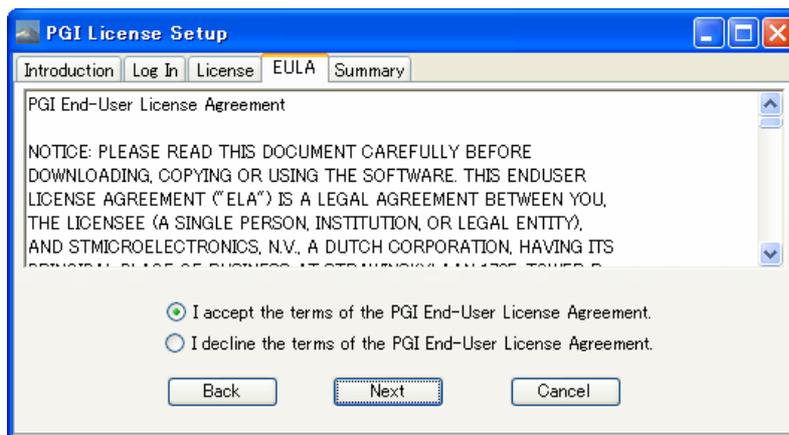


その後、お客様が購入しているライセンス製品のリスト表示の画面に移行します。「Permanent License」をチェックし、「Please select a PIN」をクリックすると購入製品のリストがプルダウンします。当該製品ライセンスを選択し「Next」を押して下さい。

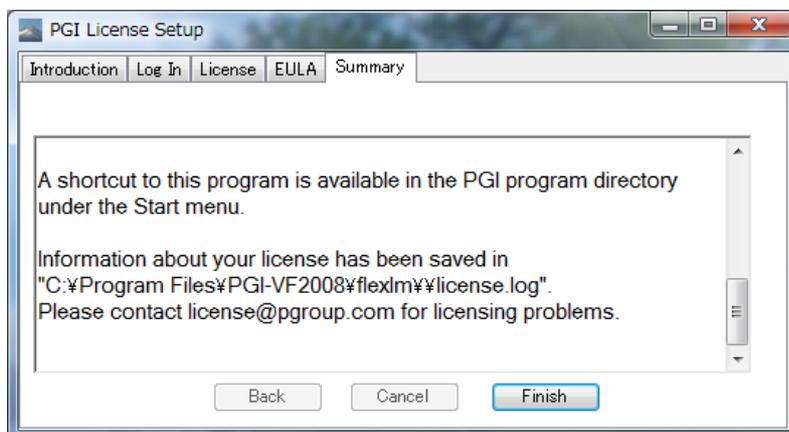
当該製品ライセンスを選択し「Next」を押して下さい。



ライセンス使用許諾書を確認してください。

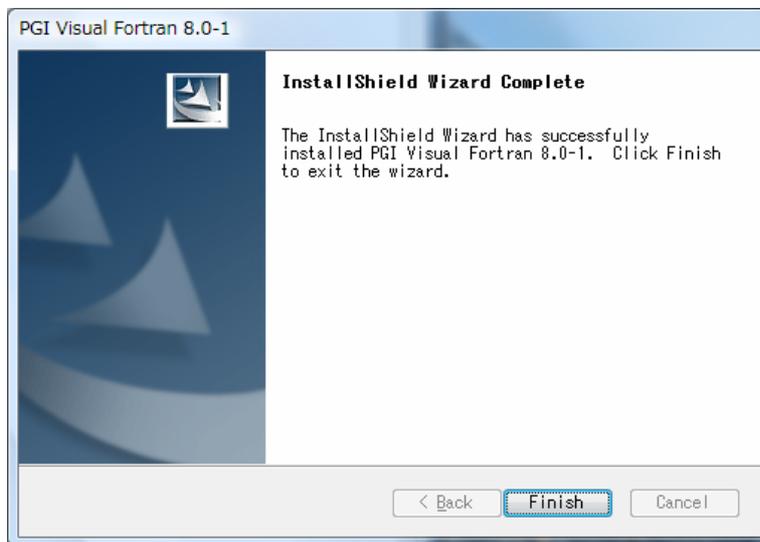
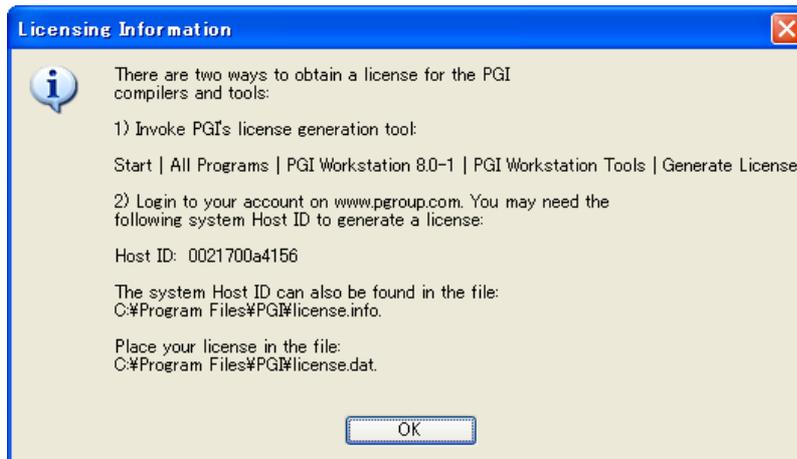


以下のメッセージ(一例)によって、C:\Program files\PGI\license.dat の設置と、PGI License Manager というライセンス管理デーモンを自動的にスタートさせます。



次に、ライセンスの取得方法を改めて説明するダイアログ等が出てインストールが終了しま

す。



新規購入のお客様の場合、ライセンスファイルの自動取得が成功した場合は、インストール並びにライセンスのセットアップがすべて終了したことになります。

バージョンアップの目的のお客様あるいは、新規購入のお客様の中でライセンスファイルの自動取得を行えなかった場合は、新バージョン用のライセンスキーの再取得とセットアップが必要ですので、引き続き、5章をご覧ください。

#### 手動でライセンスキーを入手する場合

新規ライセンスキーファイルの自動取得手続きと自動でのライセンスファイルのセットアップは、インターネットに接続できる環境が必要となりますので、この環境ではない場合、手動でライセンスキーファイルを取得してセットアップする方法もあります。この場合は、別紙「ライセンス発行の手引き」をご参照いただき、PGI社のライセンス管理サイトにログインして、ライセンスキーを取得してください。その後、5章の手続きを進めてください。

## 5 バージョンアップ時のライセンスの設定方法

バージョンアップの際は、ライセンスキーを PGI 社のライセンス管理サイトから再取得する必要があります。その後の FLEXlm 形式のライセンス設定方法を以下に説明します。

### 5.1 正式ライセンスの取得

PGI 社のライセンス管理サイトにおいて、現在使用しているシステム用のリリースアップされたライセンスキーを入手することができます。ライセンス入手方法につきましては、別紙「[ライセンス発行の手引き](#)」をご参照下さい。あるいは、弊社ホームページの以下の URL をご覧ください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html#003>

### 5.2 ライセンスファイル(license.dat)の修正と配置

FLEXlm 形式の取得したライセンスキーは下記のような形態となります。

```
SERVER {ホスト名} <hostid> 27000
DAEMON pgroupd
PACKAGE pgi80-pvf pgroupd 8.0 1C6259E01F65 COMPONENTS="pgi-pvf:8.0 ¥
pgi-f95-win64:8.0 pgi-f77-win64:8.0 pgi-f95-win32:8.0 ¥
pgi-f77-win32:8.0 pgi-dbg:8.0" OPTIONS=SUITE SIGN="1A31 7098 ¥
560E 5FFD 04B2 3F95 3ED0 317B 9476 F166 6F30 A1A8 E8A0 22D1 ¥
F740 0471 94BE 39A4 AFCD 2470 3D37 8C62 5F63 67B0 BD11 3A53 ¥
9144 E493 1251 E778"
FEATURE pgi80-pvf pgroupd 8.0 31-dec-0 1 B005B50D2192 ¥
VENDOR_STRING=514474:4:ws HOSTID=001731715acd DUP_GROUP=U ¥
SUITE_DUP_GROUP=U TS_OK SIGN="048D 2273 A775 F98B DD04 B933 ¥
D9D9 AC13 3BA6 5341 7D20 A91D E008 89E4 BBC6 1629 A12A 602F ¥
703F F41E 49E5 04CE 792C C6C4 A054 145E 7D88 D765 BA6C 267B"
(以下、省略)
```

上記のような取得した新ライセンスキーを確認した上で、PGI コンパイラをインストールした Windows®システム上のインストール・ディレクトリ（例：C:\Program Files\PGI）直下に license.dat ファイルとして配置（同名のライセンスファイルを上書き）します。

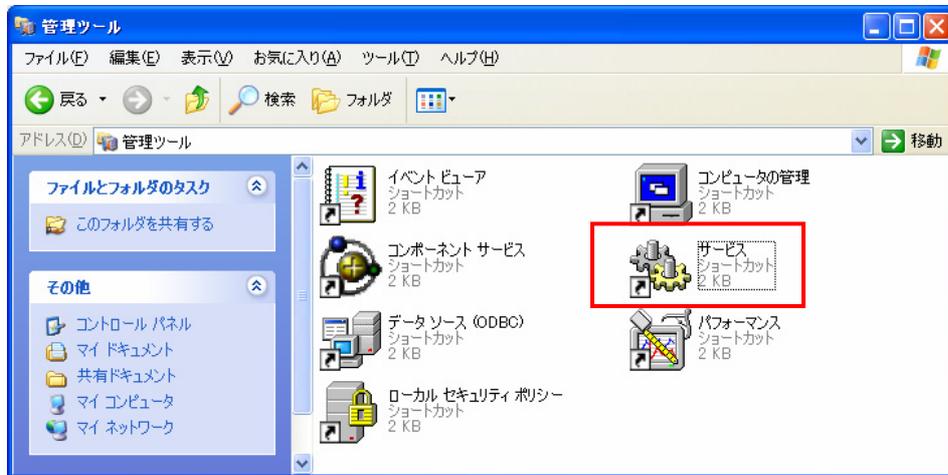
license.dat の一行目（SERVER 行）には、インストールしたマシンのホスト名が記述されております。上記の例では、HPC-PENTIUMD がインストールしたホスト名です。この内容が正しいことを確認してください。これ以外に変更しないでください。

以上で、正式ライセンスの取得と設定は終了です。

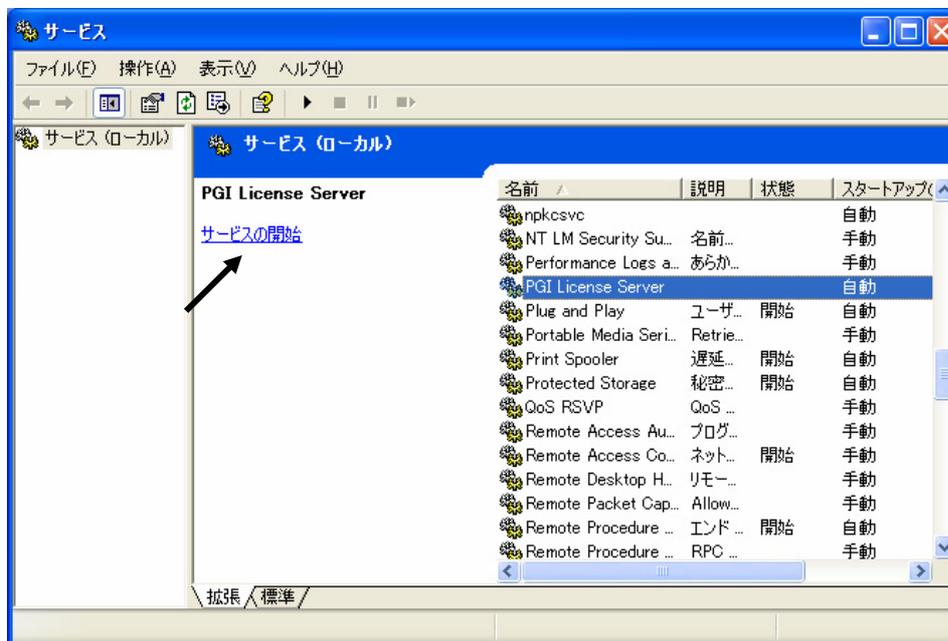
### 5.3 FLEXlm ライセンス・マネージャの起動

ライセンスを管理する FLEXlm マネージャを開始する手続きを行います。一般には、マシンの再起動後に、自動的に FLEXlm マネージャを立ち上げるようになっています。マシンを再起動するか、あるいは、以下の方法で明示的に起動させます。

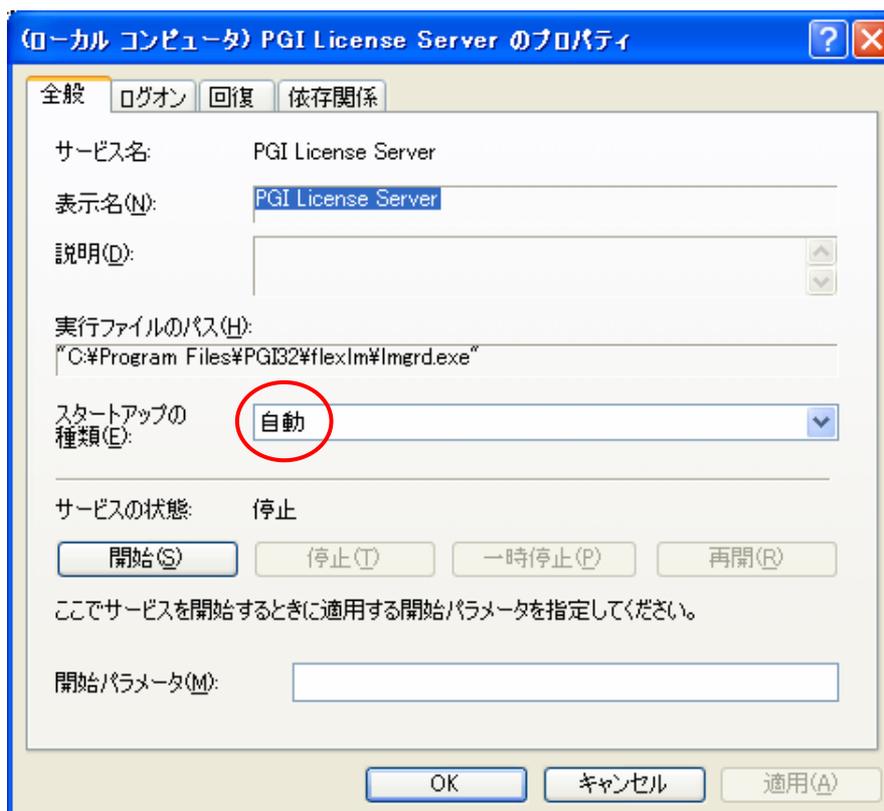
Windows® の「コントロールパネル」を開き、「管理ツール」を起動します。管理ツールを起動した後、以下のような画面が現れますので、この中の「サービス」をクリックし、その画面を出します。



以下の画面は、Windows® システムの「サービス」の開始、終了、再起動をコントロールするものです。この中に、「PGI License Server」という名称のサービスがありますので、それをクリックして選択します。その際、以下のような画面となりますので、「サービスの開始」をクリックし実行してください。これによって、ライセンス管理マネージャ起動し、PGI コンパイラを使用することが出来ます。



「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面（32 ビット製品の場合の一例）は、上記画面上の「PGI License Server」部分を右クリックするとメニューが表示されます。その中の「プロパティ」を選択することにより、以下の画面が表示されます。以下の画面の中央部に「スタートアップの種類」があり、これが「自動」となっている場合、システムが起動した際に自動的にこのサービスが立ち上がります。



以上で、PGI コンパイラのインストールとライセンスの設定は終了です。

#### (トラブル・シューティング)

PGI コンパイラを使用する際に、以下のようなエラーメッセージが現れた場合、license.dat が設定されていないか、上記の FLEXlm マネージャが起動していないことが考えられます。正規ライセンスファイルが、C:\Program files\PGI\license.dat に設定されているか、また、FLEXlm マネージャが動作しているかをご確認ください。

なお、FLEXlm ライセンス・マネージャの実行ログファイルは、C:\Program files\PGI\flexlm\license.log にありますので、このファイルを見ることで問題の糸口が見つかることがあります。

```
PGI$ pgf90 test.f
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Failed to checkout license
pgf90-win64: LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license
server system.
The license server manager (lmgrd) has not been started yet,
the wrong port@host or license file is being used, or the
port or hostname in the license file has been changed.
Feature:      pgf90-win64
Server name:  192.168.0.27
License path: C:\PROGRA~1\PGI\license.dat;C:\PROGRA~1\PGI\license.dat
FLEXnet Licensing error:-15,10.
System Error: 10061 "WinSock: Connection refused"
For further information, refer to the FLEXnet Licensing End User Guide,
available at "www.macrovision.com".
```

#### 【その他のライセンス・マネージャ関連のメッセージ】

- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: No such feature exists.’  
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、license.dat ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。従って、正規キーが含まれたの license.dat ファイルであるかをご確認下さい。
- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot connect to license server system.’  
PGI コンパイラを起動した際に、このメッセージが出た場合は、PGI License Server が起動していない原因が考えられます。
- ‘ローカルコンピュータ上の PGI License Server サービスは起動して停止しました。パフォーマンス、ログ、警告サービスなど、一部のサービスは作業がない場合自動的に停止します。’  
PGI License Server を起動する際に、あるいは、システムの起動時に自動的に PGI License Server が起動された際に、上記のメッセージが出た場合は、license.dat ファイルの中に含まれている「ライセンスキー」が正しくないことを意味します。
- ‘LICENSE MANAGER PROBLEM: License file does not support this version’  
Feature : pgi-pvf-standard  
Application version : License version 8.0 > 0.0  
このメッセージは、現在のライセンスファイルの中に正規のキーが含まれないことを意味します。ライセンスファイル (license.dat) をご確認ください。
- Windows(R) 上での License Server は、デフォルトでは、警告あるいはエラーメッセージをその都度、ポップアップ・メッセージとして出力します。これを抑止するためには、環境変数 FLEXLM\_BATHCH を設定して、この値を 1 と定義することで実現できます。(PGI のデフォルトの起動バッチファイルでは、この設定がすでになされております)

## 6 PVF フローティング・ライセンスの設定

### 6.1 他マシンにインストールして使用する際のライセンスの設定(PVF Server 製品)

PVF Server フローティング・ライセンスは、ネットワーク上の任意のマシン上で PVF コンパイラが使用可能なフローティング・ライセンスです。複数のマシン上に PGI コンパイラをインストールして、各マシン上で PGI コンパイラを使用することができます。各マシン上でコンパイラを使う際の license.dat の設定の仕方を説明します。

ここでの仮定は、二つのマシン上に PGI コンパイラをインストールすることとします。また、1 台目のマシン上で FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げることを想定します。この 1 台目のマシンとは、上記の 5.2、5.3 の内容を設定したマシンのことを指します。この FLEXlm ライセンス・マネージャを起動するマシンは、できるだけサーバの停止を伴わないものを選択してください (ライセンス管理サーバの位置づけとなります)。

(1 台目のマシン : ホスト名を 「hostA」とします : サーバマシンです)

PGI コンパイラを本インストールの手引きに従い、ソフトウェアをインストールし、上記 5.2、5.3 のようにライセンスの設定を行い、FLEXlm ライセンス・マネージャを立ち上げます。これによって、1 台目のマシン上で PGI コンパイラを使用することができます。なお、FLEXlm ライセンス・マネージャのデーモンを起動したこの 1 台目のマシンが、他のシステムにインストールされた PGI コンパイラの動作を管理するライセンスサーバと言う位置づけになりますので、このサーバが停止されますと、他のマシン上でのコンパイラが動作しませんので

ご注意ください。

(2 台目以降のマシン：ホスト名を「hostB」とします：クライアントマシンです)  
PGI コンパイラを「インストールの手引き」に従い、ソフトウェアをインストールしてください。C:\Program files\PGI 配下にある license.dat のファイルに対して、1 台目のマシン上の正規ライセンスファイル (C:\Program files\PGI\license.dat) をコピーし、上書きします。その後、そのファイルの 1 行目 (SERVER 行) のみ残し、DAEMON 行以降を削除します。その後に、2 行目に“USE\_SERVER” を記述して改行します。これによって、クライアントの位置づけとなるシステム上では、以下に示すように 2 行のみからなる license.dat を配置することになります。なお、5.3 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャは、2 台目以降のマシン上では「停止」してください (「PGI License Server」サービスを停止する)。これによって、2 台目のマシンで PGI コンパイラがローカルに使用できます。

**(重要)** クライアントの位置づけとなる Windows 上のシステムでは、上記 5.3 項で説明した FLEXlm ライセンス・マネージャのサービスは、「常に起動しない」ように設定してください。インストール時のデフォルトは、システム起動時に自動的にサービスを開始しようとするため、lmgrd プロセスに関するエラーメッセージが現れます。「コントロールパネル」->「管理ツール」->「サービス」->「PGI License Server」のサービスの「プロパティ」画面上で、「スタートアップの種類」を「無効」にしてください。

【クライアント側のシステム上の license.dat の一例】 (2 行のみで構成する)

```
SERVER hostA <hostid> 27000  
USE_SERVER
```

もし、コンパイラ使用時に以下のエラーが生じた場合は、上記 license.dat の SERVER 行の hostA を hosts/DNS により名前解決ができない可能性がありますのでご確認ください。特に、Windows 上の firewall の設定、ウイルスソフトウェアの IP フィルタの設定等に TCP をブロックする設定がなされていないかをご確認ください。

LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot find SERVER hostname in network database

なお、PGI のサーバ・ライセンス製品の FLEXlm ライセンスサーバの設定に関しては、以下の弊社の Web ページ (FAQ) 上でも説明しておりますので、ご参考にしてください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq3.html#009>

## 7 その他

### 7.1 PVF コンパイラの起動

PVF コンパイラは、Visual Studio 2005/2008 統合環境上で使用するため、「Visual Studio 2005/2008」を起動する必要があります。あるいは、Windows の「スタート」->「すべてのプログラム (P)」->「PGI Visual Fortran」->「PGI Visual Fortran」を選択して起動しても、同様な Visual Studio 2005 の画面が現れます。

Visual Studio 2005 を初めて起動した際、以下のような画面が表示されます。Visual Studio の開発作業環境のデフォルトを指定するものですが、これは、「全般的な開発設定」を選んで Visual Studio の開始を行ってください。



## 7.2 PVF コンパイラ・ソフトウェアのアンインストール

Administrator 権限を有するユーザが、Windows® の「コントロールパネル」の中の「プログラムの追加と削除」で行うことが可能です。PVF をアンインストールする際に、Visual Studio 並びに Visual Studio ヘルプが動作していないことを確認してください。

PVF ソフトウェアは、以下の二つのコンポーネントが Windows 上に登録されており、「プログラムの追加と削除」の画面上に以下のものが表示されます。(②に示す 8.0-1 は、一例です。インストールされたバージョン番号が記されます)

- ① 「PGI Visual Fortran 2005」 or 「PGI Visual Fortran 2008」
- ② 「PGI Visual Fortran (Compilers only) 8.0-1」

①は、Visual Studio 2005/2008 用の PVF のための統合用モジュールです。

②は、PGI のコンパイラ本体部分のモジュールです。この二つを削除することで、PVF ソフトウェアのアンインストールが可能となります。

## 7.3 PVF コンパイラの入門ガイド

Microsoft® Visual Studio 2005/2008 (IDE)環境で使用する PVF コンパイラの一般的な使用方法を簡単に纏めた「入門ガイド」が別途用意されておりますので、ご利用いただく際には、これをご覧下さい。

## 7.4 オンラインドキュメントの参照

PGI コンパイラは、PDF 形式のオンラインドキュメント (英文) が同梱されています。下記の Microsoft Visual Studio フォルダに納められております。また、Visual Studio を起動して、オンラインヘルプを参照していただいても PGI Visual Fortran 関係のマニュアルをご覧頂くことができます。

C:\Program Files\Microsoft Visual Studio 9\PGI Visual Fortran\doc

## 7.5 バグフィックスの適用

以下の弊社ホームページにて適時、製品のバグフィックスを公開します。必要に応じて適用下さい。バグフィックスのリリース番号とは、例えば PVF 8.0-1 の場合、ハイフン以降の番号が上がる場合を指します。

<http://www.softek.co.jp/SPG/ftp.html>

なお、Windows® 版のバグフィックスの適用は、再度、新ソフトウェアをダウンロードして、Windows® 上で自己解凍ファイルをダブルクリックして、インストールを行ってください。なお、バグフィックス・バージョンのインストールの場合は、現在のバージョンを「アンインストール」してから行うことを推奨します。「アンインストール」の方法は、コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行うことができます。また、現在動作している「PGI License Server」を停止した後、バグフィックス・バージョンをインストールする際は、**C:\Program Files\PGI\license.dat** ファイルを別名に退避してから行ってください。その後、インストールが終了次第、このファイルを license.dat という名称に変更してください。以下に、ソフトウェアの再インストールの方法を順番に説明します。

1. 「PGI License Server」を停止する。(上記、4.2 項を参照のこと)
2. 現在のバージョンをアンインストールする。コントロールパネルの中の「プログラムの追加と削除」で行う。
3. **C:\Program Files\PGI\license.dat** ファイル名を別名に退避する。
4. 新バージョンをインストールする。
5. 別名に退避した license.dat ファイル名を **C:\Program Files\PGI\license.dat** として戻す。
6. 「PGI License Server」を手動起動する。

## 8 サポートサービスについて

### 8.1 初期サポートサービス

ソフトウェア情報パッケージ未購入のお客様を対象に弊社からプロダクト出荷後 30 日間は、インストール不具合についてのサポートを行っております。下記のメールアドレスまたは FAX にて対応しております。

support@softek.co.jp  
FAX:03-3412-7990

メールの表題には「PGI コンパイラ初期サポート依頼」とご明記下さい。また、メール本文中に、お客様のご氏名・ご所属・ソフテック UserID (SPG2008-XXXX) を必ずご記入下さい。ご記入に不足部分がございますと、対応が遅れることやサポートをお断りする場合がありますのであらかじめご了承下さい。

また、よくあるご質問 (FAQ) ページ並びにコンパイラの使用法、オプションの使い方、その他の技術情報 (TIPS) を以下の場所に用意しておりますので、弊社へのお問い合わせ前にご一読頂ければ幸いです。

(FAQ)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/pgi-faq.html>

(PGI サポートセンター)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/support.html>

(技術情報 TIPS)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/tips.html>

なお、電話での初期サポート依頼の受付は行っておりませんのでご了承下さい。

### 8.2 ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口

ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション) ご購入のお客様は以下の事項について製品購入時より 1 年間有効となります。期間満了の約 1 ヶ月前になりましたら弊社より更新の案内をさせていただきます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

上記につきましては、電子メールと FAX での受付となります。下記のアドレスで対応しております。

[support@softek.co.jp](mailto:support@softek.co.jp) Tel:03-3412-6008 FAX:03-3412-7990

以上